

# 岩手郡医報

平成7年12月 No51  
編集 発行  
岩手郡医師会  
題字 平石町高橋孝先生



筆勢あざやかに描き上げる白沢恵舟先生

去る11月25日の郡医師会臨時総会に、今回初めての試みとして、秋田県出身の水墨画家白沢恵舟先生（65才）を迎えての水墨画の実演会が行われました。自然を見て、触れる機会の多い先生の山水を描く沈思黙考から、目で、心で、感じて促えた山水を感動のまま筆に落す、無心で大胆に、一気に描く姿は、年令を感じさせない躍動感さえ感じられ、出来上りまでの筆の動きをジーンと見守る先生方の表情も、『すばらしい』という安堵感がただよっているようにも感じられた。 (M. S記)

## 目次

水墨画の実演	白沢 恵舟先生…… 1	「おらほの先生」 葛巻町 近藤医院の巻 …… 6
岩手郡医師会臨時総会	会長挨拶…… 2	随想「正直であってはならない」 高橋孝…… 7
学術講演「糖尿病について」	木村秀孝先生 …… 2～3	新入会員 …… 8
特別講演「水墨画の心」	白沢恵舟先生 …… 3～4	岩手郡医師会役員会 …… 8
寄稿 CQ CQ こちらメディカルネット	細川久昭 …… 5	編集後記 …… 8

## 岩手郡医師会臨時総会



高橋会長

### 会長挨拶

お忙しいところ、ご参集いただきましてありがとうございます。社会動向に目を転じますと、政局の混乱と経済の不振という二つのマイナス要因による悪循環は目を覆うばかりです。政治情勢には不満でも関心を持たざるを得ないわけです。一時も早く政治経済の安定を期待するものです。

戦後50年の大きな節目の平成7年でしたが、くしくも選挙の年となり、我々選挙の素人集団は非常に良き経験をさせてもらったと思っております。新選挙制度の下で、衆議院の解散・総選挙の可能性も示唆されておりますので、日医をバックアップする政治勢力の結集を訴え会員の理解と支援を強く求めるものであります。

医療社会の危機突破のために、診療報酬の引き上げに関しては、景気の低迷、政情不安など、情勢はきびしいが、不退転の決意で全力投球すると日医は気概を示しています。

消費税問題については、3%の消費税導入時における消費者への転嫁について吟味する必要があり、それを決定した中医協こそが不合理を究明する恰好の場であります。中医協の医療実態調査を踏まえて、損税の解消に努力してもらいたいものです。

と き：平成7年11月25日(土)

午後

ところ：盛岡市ホテルメトロポリタン盛岡

薬剤問題は「高値安定を是正すべく頑張っている」ということで、価格設定の問題点や適性使用を検証し、技術料に振り向ける方向で取り組む姿勢ということでした。

審査、指導は監査小委員会で論議となり指導後の自主変換の取り扱いについて、厚生省は明文化しようとしたが、日医が承知せず、結果的には報告書にはもりこまれなかったが、初回指導における自主返還ということは、近いうちに必ずなくなると思います。

高齢者介護は、まさに現代が抱える課題であります。かつて高齢者は自宅で家族に看取られながら死を迎えていたが、その時代は高齢者の数は少なく、しかし介護は今とは比較にならないほど短かった。言わば「最後の看取る看護」であった。

現在、介護を要する高齢者は激増し、介護期間も長期化しており、その意味でも今日の看護は、高齢者の「生活を支える介護」であり、かつて家族が担ってきた介護とは量的にも大きく異なるものとも言われます。いずれ自分も高齢期を迎えるという意味で、自分自身の問題でもあることを十分銘記する必要があります。

介護保険など高齢社会における介護システムを如何に構築していくかが、今医師会が問われている問題だと思えます。

### ◆学術講演



盛岡赤十字病院  
副院長  
木村秀孝先生

## 『糖尿病について』

盛岡赤十字病院副院長

木村 秀 孝 先生

### 【略歴】

昭和17年八戸市生まれで、昭和44年岩手医大卒業、第二内科入局、昭和48年学位を取得され、昭和49年花巻総合病院内科へ勤務、昭和50年盛岡赤十字病院内科へ移り、昭和57年より同病院内科部長となり、平成7年より同病院副院長となった。

当院総合内科に通う糖尿病患者の総数は、男233名、女264名、合計497名である。年代別にみると70代65名、80代15名と、高齢者の増加傾向がみられます。糖尿病があっても80代まで生きるという証拠ですが、一方合併症の重篤化の心配も懸念され、今後十分なる管理が必要と思われます。

糖尿病の診断には、75g G T Tを施行しますが、その際のインスリン分泌状態をみると、糖尿病の重症度合によりはっきりした傾向を示します。正常者では血糖値のピークが60分であり、しかも160mg/dlを越えない状態である。インスリンは血糖上昇前30分にすでにピークになるパターンをとります。それに対して糖尿病患者の場合重症度が増す毎にインスリンのピーク時間が60分、90分、120分と後方にずれてゆき、かつインスリンの分泌量が低下しほとんどピークのみられない横一線

の状態になります。ただし食事療法をしますと元にもどり良くなります。食事療法や経口剤で血糖の改善のみられるものをインスリン非依存型糖尿病、改善がみられずインスリン注射を必要とするものをインスリン依存型糖尿病と考えて対応して下さい。

厚生省の国民生活基礎調査によると糖尿病患者を150万人と想定した場合、種々の合併症患者数はどの程度になるのでしょうか。この調査成績によると、顕性腎症が約15万人、網膜症が約60万人（うち片眼または両眼失明者約4万3千人）、神経障害が約54万人、虚血性心疾患が約10万人、脳梗塞が約8万5千人、皮膚潰瘍と壊そが約3万人（うち下肢切断約9千人）となります。かかる糖尿病合併症患者をいかに予防出来るかが、微力ではありますが、私たちに課せられた仕事であろうと考えます。

◆特別講演

## 『水墨画の心』



白 沢 恵 舟 先生

全国水墨画普及協会理事

白 沢 恵 舟 先生

### 〔略歴〕

昭和5年秋田県五城目町生まれ、昭和50年より水墨画を学ぶ。伝統技法を大切にしながらも、自由な心で独自の個性ある創作を目指して、多くの愛好者と共に現在も各地で教室を主宰し、文部大臣賞、全日本水墨画会会長賞など多数の受賞作を始め、北京、パリ、アメリカなど海外活動も活発に行い、国際交流に活躍している。

### 〔講演・実技について〕

あらかじめ配布された略歴を見ながら、水墨画そのものが実際どんなものか、ほんやりと目に浮かぶ程度の知識で臨んだ講演会であったが、演者本人も申していた通り、あまり人前でお話しをする機会がなく、ここに立っているのが不思議な位と謙遜しながら、

海外での活躍、国際交流も活発に行っている人とは思えない堂々たる風格であった。

いざ実技実演に入るや、一気に墨滴を滑らす手法は仲々マネの出来るものではないと恐れ入った次第であり、多くの先生方の見守る視線を浴びながら、無想の心から集中力を一気に充めて描き上げた。

二枚描いたうちの一枚目は、古木を思わせる梅の樹で、紅白の花弁をあしらい、ところどころに新芽を描き入れる細やかさはさすが女性の観察眼と思われた。(後からこの画のタイトルは?とお聞きしたところ、『早春』と言っていました。)



熱の入った山水を描く  
白沢 恵舟 先生

二枚目の画は、正面に岩肌を描き入れたかと思うと、目で、心で感じて促えた山水の風景を感動のまま筆勢彩やかに周囲に草木を描き入れて、自然の状況判断が実にあざやかであった。

描き入れる紙質によっても思いがけない滲みが出たりすることもあれば、多少乾いてから追加描き入れも必要な場面もあるという。また水墨画には作者の性格や感情を強調してもいいものと思う。ようするに「水墨画の心」は、即ち無心である、ということを実感された作品であったと思われます。

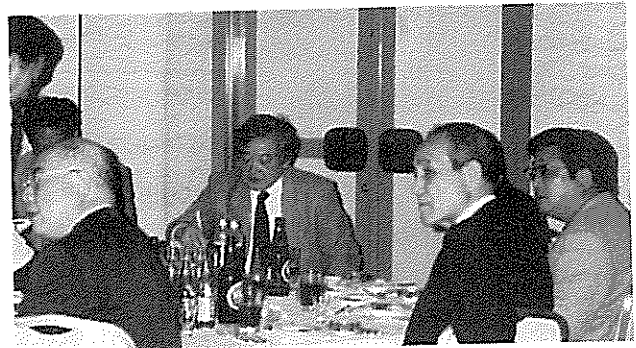
(M. S記)

講演が終わったあとと同ホテル内において忘年会を兼ねて懇親会が行われた。

上原先生のトランペット、サックスの演奏あり、先輩や若い先生方もなつメロや最近の話題曲ありのカラオケと共に本日講演の白沢先生もダンスに興じられたり楽しい忘年会の夕べであった。



「北上夜曲」を熱唱する上原先生(左)と  
高橋先生(右)



懇親会にて

寄稿

## CQ CQ こちらメディカルネット

DE JH7XGQ

昭和46年7月30日、雫石上空でおきた全日空機事件におけるアマチュア無線を駆使した岩動隆一先生（JA7DF）の活躍は有名ですが、平成7年1月17日の阪神大震災でも、電波監理局の超法規的なトランシーバー使用許可もあって、アマチュア無線が大活躍いたしました。また、アマチュア無線が活躍している一例として、豪雪地帯を抱える新潟では、ドクターハムによるネットワークが構築されております。岩手県でも、災害時のネットワーク作りの第一歩として、平成7年2月20日から、432.50 MHz FMで、毎週月曜日21:00～21:30 JST に定時交信を行っており、11月20日で40回を数えました。現在までの参加は、JA7AOM（及川忠人）、JA7ANB（鈴木信顕）、JH7HIR（斉藤和好）、JH7OLB（岩動 孝）、JH7XGQ（細川久昭）、JR7AVH（杉江 尚）、JR7QWT（小時田宏侑）、JR7HMR（照井）、JE7EDF（佐々木盛徳）、JG7CRJ（間山 諭）、JI7HFW（栃内秀宜）、JK7MQK（鶴 田）、JK7UPR（佐 藤）、JM7FQR（細川）、JM7WZX（石川茂弘）の各局で、その他にJI7UGG（小野寺健一）、

JR9IMC/7（桜井 滋）局からも連絡をいただいております。

周波数の関係もあり、盛岡市とその近郊が中心となっておりますが、将来は短波帯による岩手県全体のネットワークに発展することを願っております。平成8年1月29日には、メディカルネットの定時交信が50回になりますので、良い日をえらんでアイボール・ミーティングを行いたいと思います。とりあえず広域盛岡として、上記の局以外に、盛岡市、紫波郡、岩手郡のドクターハムの先生がおられましたら、是非ご連絡をいただきたいと存じます。またお空でのメディカルネットへの参加もお待ちしております。

連絡先  
〒020-01 盛岡市月が丘1-31-31  
三愛病院 細川久昭  
TEL 0196 (4) 6 6 3 3  
FAX 0196 (4) 6 6 3 2

## おらほの先生

「おらほの先生」は、大正10年御誕生あそばしたとか、戸籍上は74才ですが、とてもとても70代とは思えません。20代は一寸無理かもしれませんが、30代ですね。

と申しますのは、まだまだ奥様のプレーキが無ければ、生酒1升はいけるんじゃないでしょうか。

院長室は二階ですが、階段をピョン、ピョン馳せ上がります。

第一印象は、無口故、取っ付きにくい感じを受ける様ですが、お孫さんが出来てからは丸くなり、小児達にも声をかけ笑わせます。

一旦<sup>ツキア</sup>交際ば、人の良さが判り、旧知というか、友達の様話し合っています。

俺は医者なんだとふんぞり返る姿は、一度もお目にかかった事ありません。

それ故、町内の、何の会、彼の会、とお呼びがかり、黒板はスケジュールで一杯です。

趣味も多種多様で、映画も洋画から時代劇、音楽も、クラシックから演歌まで、カメラも何百台とあり、奥様が二階が落ちるんじゃないかと心配する程です。

人の悪口をいうのも、聞くのも嫌いで、私達職員にも不平不満が多々ある筈ですが、顔に出さないもんで、居心地が良く20年、30年、と居着いています。

毎日来るくすり屋さん達も、町内廻りを

## 葛巻町 近藤医院の巻

終え、一番最後に当院に寄り、自分達仲間、先生、事務長さん達と、ワイワイ、ガヤガヤ、キャロム、とかいうゲームで、一時間、二時間、と息抜きをして帰る毎日です。

経営面では、良きにとりからはからえ主義ではないかと思受けられます。

こまい事には、一切口出ししない様です。

好きなお酒を飲み（適当に）、好きな事をして、大いに楽しみ、ストレス「0」にし、長生きして頂かないと、私達職員が職をうしない、日干しになりますので、皆んなの為に頑張っしてほしいと思っています。

職員一同



講演会にて熱心に聴講する  
近藤先生(右)、左は佐藤葛巻病院長

随想

## 正直であってはならない

罌石町 高橋 孝

10年以上前だったと思うが、恩師から医局員に読ませるので書いてくれないかと依頼されて、外科医は正直であってはならないと言う言葉が入った外科医の心得の様な言葉を下手な字であったが書いたのを思い出した。恩師に正確な言葉を知りたくて、外科医の心得を書いてある本を問い合わせたら、親切にもコピーを送っていただいた。東大の和田達雄教授のお話して、そのなかに「外科医を訪れる患者の大部分は、手術に対する恐怖感を多かれ少なかれ胸に抱いているもので、この恐怖感をできるだけ軽くしてやって、患者自身が正しい治療を受けることを納得するようにもって行けるかは、全て診療にあたる外科医の姿勢にかかっている。」とこのような書き出しで、次の5つの言葉が解説されて載っていた。外科医は清潔でなければならない、親切でなければならない、偉くなくてはならない、謙虚でなければならない、最後に外科医は正直であってはならないと書いてあった。勿論未だ「患者に対する告知」についても十分な討論がなされない昭和55年頃の本で、手術の内容や予後について、患者に対して不必要に正直であることは、少なくとも現在の我が国の外科医としては不適切と思われる。この中で癌の告知についても今討議中であるが、患者の幸福のためには、まさに「嘘も方便」と言った場合がいくらかもあるのが臨床医学の実態である、と説いている。恩師からのお便りにも、インフォームドコンセントにふれ、「外科医は馬鹿正直ではなく、個々の患者を良く知り、それぞれの患者に最も良い告知をすること、其のための知識の習得に力を注ぐべき時代だ」と書かれてあった。勿論この心得は各科の医師に通ずる良い言葉と思った。

医者は病気になっても、病人になるなどと言う言葉もあります。これは医者に対して「病

気」の「気」を取り除く危害を鼓舞する事と、病人の様な顔をした医者では患者が治らない、との二つの意味があると思う。正直であってはならないは、隠す、伏すの類で、嘘、あるいは騙すのではない、一方病人の顔をしないのは嘘、騙すの類のように思われる。

何れ医師は役者以上に常に二つ以上のマスクを持ち、これをいかに上手に使わせるかも、患者の治療効果に大きな役目を果たすマスクではある。

我々は肉眼解剖、組織解剖では、シェーマで泣かされた。又いま画像診断に至っては立体的に絵を描かなければならない。書道の「書芸」と言う本だったと思うが、裸婦を含む人物画全ての絵では「人体の解剖の知識、筋肉は元より、骨、内臓についても知識のある絵かきの絵は安心して見れる」とかいてあった。更に医師が描いた絵には感情豊かで、画題の中に入り込んだ温かさがあるとも書いてあった。白衣も患者の心を和ませる為、又鎮静に導くために、薄いブルーに変わり、小児科は普段着の先生もいる。一方待合室に飾る絵、写真も、暑い夏は冬山だったり、寒い冬は南国の赤、黄色を主にした温かい、絵、写真（アメリカではこれらの絵、写真は税制の面でも認められているそうだが）と、これらを考えると医者は芸術家で、しかも常に患者の心を探し続けるアーティストかも知れない。病気のように嘘をついて人を陥れて、人に不愉快な思いをさせる人もいるが、捨てたタバコの吸い殻で、嘘が解る人もいると言う。二つ以上のマスクを持ち、嘘も方便のところで止め、インフォームドコンセントとも考え合わせながら、美しい嘘をつき続けたいと思っている。更に家内の側では、タバコの吸い殻を捨てないで、家内だけには、嘘は他所の人がつくものと、思い続けてほしいものである。

## 新 入 会 員

- ① 氏 名：金森 一郎 先生  
           (滝沢村老健施設カルモナ)
- ② 年 令：45歳
- ③ 出身地：東京都
- ④ 出身校：岩手医科大学
- ⑤ 診療科目：精神神経科
- ⑥ 開業の時期：平成7年3月27日 滝沢老人  
                   保健施設カルモナ開設
- ⑦ 趣 味：世間話、無駄口、座談、ゴルフ、  
           野球

- ⑧ 何かひとこと：  
 positive thinking を心掛け荒海に船出します。何卒御指導、御鞭撻の程宜しくお願ひいたします。  
 向後、皆様と協力強調し少しでも岩手郡医師会の充実・発展に力を尽くせたらと祈念しております。入会を認めて頂き有難うございました。

## 岩手郡医師会役員会

日 時：平成7年10月18日 (水)  
           午後6時より

場 所：盛岡市大通り「梓」

出席者：会長、高橋孝、西島、八角、佐々木、  
           及川、上原、篠村、岡本、佐藤、高橋克、坂井、根本、嶋

### 議 題

1. 平成7年度県民健康講座について
2. 岩手郡産業医研修会について
3. 医師会入会金の件について
4. 社会福祉法人春陽会の嘱託医について
5. 自民党県連より代表者選任依頼のこと
6. 医療廃棄物処理について
7. 「ciba地域医療賞」の候補者推薦
8. 会員動向

9. 岩手医学会秋季大会について
10. 臨時総会について
11. 通常総会について
12. 岩手郡医師会役員改選について
13. その他

## 岩手郡医師会役員会

日 時：平成7年12月7日 (木)  
           午後6時より

場 所：盛岡市大通り「梓」

出席者：会長、高橋孝、西島、八角、佐々木、  
           及川、嶋、上原、佐藤、篠村、高橋克、坂井、和田、根本、岡本

### 議 題

- 次期役員改選について

## 編 集

●日めくりカレンダーも残り少なくなり、慌しい1年も過ぎ、新たな年を迎えよとじています。今年の主なものとして、1月17日に阪神・淡路地方を襲った大地震については皆様の記憶に残った大事件であったと思います。また3月に起こった地下鉄サリン事件など、つぎつぎと事件があり、徐々に解決しようとしています。暗い事件の多い1年であったと思います。

●11月25日に行われた臨時総会、講演会、忘年会は多事多忙の1年を送るにふさわしい集まりであった。

学術講演会でお話しをいただいた「糖尿病について」は、最近増加傾向にある疾患の一つで、合併症(壊疽とか網膜症など)が心配の種となるものが多い。木村先生にはその点について解り易く解説していただいた。

特別講演、実演をいただいた水墨画につ

## 後 記

いては、雫石町の高橋孝先生の御紹介で、初めて企画されたもので、水墨画そのものを初めて見る人も多数おられたと思います。が、何よりも今回は今までにない参加者であったという。今後ともこの様な多数の参加を切望したいものです。

●CQ、CQ……は盛岡市医師会の細川先生より、アマチュア無線をお持ちの方或は興味のある方に災害時に備えての防災無線のネットワーク作りに御協力下さいとの呼びかけです。

●「おらほの先生」には、葛巻町近藤先生にお願いしました。先生を頼りにして集いくる多くの方々がいることを教えてくれました。壮健で今後ともますますの御活躍期待します。

●高橋孝先生の随想はいつも心にとめておかなければと思われる意見と考える。

(M. S記)